科目名	家畜栄養	開講時期	1年生　前期
		授業の形態	講義
ディプロマポリシー	実践的な知識・技術	時間数	15 時間
担当者名		単位数	1 単位
科目の概要	（1）家畜の飼料の消化・吸収の仕組みの理解 （2）飼料の種類と特性の学修 （3）飼養標準に基づく給与飼料の設計計算の学修		
身に付ける力	（1）家畜の体の維持、生産性向上に必要な飼料の知識 （2）家畜の体に過不足のない飼料給与量を計算する技術		
到達目標	（1）　家畜の養分の分解・吸収について理解する。 （2）　家畜の体の維持、生産性向上に必要な栄養の量を理解する。 （2）　乳用牛及び肉用牛の飼料給与量を計算し給与プログラムを作成する。		

授業計画

	授業内容・方法	時間数	講師
1	反芻胃のしくみ	2	
2	炭水化物の消化・吸収	2	
3	タンパク質の消化・吸収	2	
4	脂質、ビタミン等の消化・吸収	2	
5	粗飼料、濃厚飼料の特性と栄養価	2	
6	家畜の養分要求量	2	
7	飼料の給与量の計算、飼料設計	2	
8	定期試験	1	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

テキスト・副教材

評価方法

評価方法	観点	割合	評価方法	観点	割合
定期試験	知・技	80	実技テスト		
レポート	思・判・表		発表・成果物		
授業・実習態度	思・判・表、態	20	研修評価		

観点:「知・技」･･･知識・技能、「思・判・表」･･･思考・判断・表現、「態」･･･主体的に取り組む態度

科目名	家畜生理・繁殖（講義）	開講時期	1年生　通年
		授業の形態	講義
ディプロマポリシー	実践的な知識・技術	時間数	60 時間
担当者名		単位数	4 単位
科目の概要	（1）　牛の人工授精を行うための知識・技術の習得 （2）　人工授精を実践して技術を習得		
身に付ける力	牛の性周期を判断し人工授精を行い受胎させる技術		
到達目標	（1）　牛の人工授精に必要な基礎的な知識を理解し性周期がわかる。 （2）　牛の発情鑑定および人工授精が実践できる。		

授業計画

	授業内容・方法	時間数	講師
1	総論	1	
2	生殖器の形態及び機能	3	
3	発情におけるホルモンの動態、発情徴候	2	
4	着床、胎子の発育および妊娠による母体の変化	1	
5	分娩	1	
6	繁殖障害	1	
7	人工授精の理論と方法	2	
8	まとめ（先端技術）	2	
9	定期試験	1	
10	生殖器解剖	5	
11	繁殖生理	13	
12	精子生理	7	
13	種付け理論	4	
14	人工授精	16	
15	定期試験	1	

テキスト・副教材

評価方法

評価方法	観点	割合	評価方法	観点	割合
定期試験	知・技	80	実技テスト		
レポート			発表・成果物		
授業・実習態度	思・判・表、態	20	研修評価		

観点:「知・技」･･･知識・技能、「思・判・表」･･･思考・判断・表現、「態」･･･主体的に取り組む態度

科目名	家畜生理・繁殖（演習）	開講時期	1年生通年
		授業の形態	演習
ディプロマポリシー	実践的な知識・技術	時間数	60 時間
担当者名		単位数	3 単位
科目の概要	（1） 牛の人工授精を行うための知識・技術の習得 （2） 人工授精を実践して技術を習得		
身に付ける力	牛の性周期を判断し人工授精を行い受胎させる技術		
到達目標	（1） 牛の人工授精に必要な基礎的な知識を理解し性周期がわかる。 （2） 牛の発情鑑定および人工授精が実践できる。		

授業計画		授業内容・方法	時間数	講師
	1	家畜の審査	7	
	2	生殖器解剖	4	
	3	精液精子検査方法	8	
	4	発情鑑定	6	
	5	人工授精	35	
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			

テキスト・副教材						
評価方法	評価方法	観点	割合	評価方法	観点	割合
	定期試験	知・技	80	実技テスト		
	レポート			発表・成果物		
	授業・実習態度	思・判・表、態	20	研修評価		

観点:「知・技」･･･知識・技能、「思・判・表」･･･思考・判断・表現、「態」･･･主体的に取り組む態度

科目名	環境保全・ふん尿処理	開講時期	1年生　後期
		授業の形態	講義
ディプロマポリシー	実践的な知識・技術	時間数	15 時間
担当者名		単位数	1 単位
科目の概要	（1）畜産経営を発生源とする環境問題の確認と、関係法令の目的の理解 （2）家畜の排泄物を適切に処理するための基礎知識を学び「資源化」の方法の習得		
身に付ける力	家畜排泄物の関連法令の遵守と適切に処理する技術		
到達目標	（1）畜産環境対策と関係法令の理解 （2）家畜排せつ物の堆肥化に必要な条件に関する知識の習得 （3）家畜排せつ物の堆肥化に必要な資材の量の計算ができる		

授業計画

	授業内容・方法	時間数	講師
1	畜産環境対策の現状と問題及び法令	2	
2	堆肥化処理（1）	2	
3	堆肥化処理（2）	2	
4	堆肥化処理（3）	2	
5	堆肥化処理（4）	2	
6	堆肥化発酵処理に関する基礎数値及び計算（1）	2	
7	堆肥化発酵処理に関する基礎数値及び計算（2）	2	
8	定期試験	1	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

テキスト・副教材

評価方法

評価方法	観点	割合	評価方法	観点	割合
定期試験	知・技	80	実技テスト		
レポート			発表・成果物		
授業・実習態度	思・判・表、態	20	研修評価		

観点：「知・技」・・・知識・技能、「思・判・表」・・・思考・判断・表現、「態」・・・主体的に取り組む態度

科目名	飼料作物・草地管理演習（講義）	開講時期	1年生　通年
		授業の形態	講義
ディプロマポリシー	実践的な知識・技術	時間数	15 時間
担当者名		単位数	1 単位
科目の概要	（1）　飼料作物栽培の基礎知識の学修 （2）　作業機械を操作し、栽培から収穫・調整までの技術を習得 （3）　放牧草地の永続的な管理の方法を学修し、技術を習得		
身に付ける力	（1）　自給飼料の生産技術 （2）　放牧草地の管理技術		
到達目標	（1）　飼料作物の作付け計画を作成し栽培できる （2）　飼料作物の収穫・調整ができる （3）　草地管理ができる		

授業計画

	授業内容・方法	時間数	講師
1	飼料作物の定義、分類・特性	1	
2	飼料作物の作付体系	1	
3	飼料作物の作業機械	1	
4	飼料作物の作業体系、生育ステージの判定	1	
5	施肥量・播種量の計算	1	
6	雑草防除	1	
7	サイレージ・乾草の調製技術	1	
8	飼料用イネ・飼料用米	1	
9	中間試験	1	
10	硝酸態窒素	1	
11	野草利用	1	
12	シバ草地	1	
13	飼料作物・草地管理の最新技術	2	
14	期末試験	1	
15			

テキスト・副教材

評価方法

評価方法	観点	割合	評価方法	観点	割合
定期試験	知・技、思・判・表	80	実技テスト		
レポート			発表・成果物		
授業・実習態度	思・判・表、態	20	研修評価		

観点：「知・技」･･･知識・技能、「思・判・表」･･･思考・判断・表現、「態」･･･主体的に取り組む態度

科目名	飼料作物・草地管理演習	開講時期	1年生　通年
		授業の形態	演習
ディプロマポリシー	実践的な知識・技術	時間数	20 時間
担当者名		単位数	1 単位
科目の概要	（1）　飼料作物の栽培技術を習得 （2）　放牧草地の永続的な管理方法を習得 （3）　未利用資源（稲わら、野草）の収集・利用方法を習得		
身に付ける力	（1）　自給飼料の生産技術 （2）　放牧草地の管理技術 （3）　未利用資源の利用技術		
到達目標	（1）　飼料作物の作付け計画の作成から栽培・収穫・調製ができる （2）　放牧草地の管理ができる （3）　未利用資源の収集・利用ができる		

授業計画

	授業内容・方法	時間数	講師
1	飼料作物栽培		
2	（1）飼料作物の播種・収穫・調製・運搬	4	
3	（2）堆肥散布	4	
4	放牧草地の管理	4	
5	未利用資源の利用		
6	（1）稲わらの収集・運搬	4	
7	（2）野草の収集・運搬	4	
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

テキスト・副教材

評価方法

評価方法	観点	割合	評価方法	観点	割合
定期考査（中間試験30%）			機械運転技術	知・技、思・判断・表	50
レポート			発表・成果物		
授業・実習態度	思・判・表、態度	50	研修評価		

観点：「知・技」・・・知識・技能、「思・判・表」・・・思考・判断・表現、「態」・・・主体的に取り組む態度

科目名	畜産飼養管理演習（講義）	開講時期	1年生　前期
		授業の形態	講義
ディプロマポリシー	実践的な知識・技術	時間数	15 時間
担当者名		単位数	1 単位
科目の概要	（1）　乳用牛及び肉用牛に関する知識や技術を学修 （2）　乳用牛及び肉用牛の飼養管理を実践し、生産管理技術を習得 （3）　農家及び畜産関係機関等を視察し、先進的な取り組みや管理の違いの理解 （4）　県内外で開催される研修会や講習会等に参加し新たな知見を得る		
身に付ける力	就農又は就業した際の乳用牛又は肉用牛を飼養管理する知識及び技術		
到達目標	（1）　乳用牛及び肉用牛の飼養及び生産管理ができる （2）　県内の先進農家の取り組みや畜産関係機関の役割を知る （3）　研修会等で得られた知識等を飼養管理に活用する		

授業計画		授業内容・方法	時間数	講師
	1	家畜飼養の基礎知識	1	
	2	酪農の飼養管理各論		
	3	（1）乳牛の品種と改良	1	
	4	（2）飼養方法と施設・設備	1	
	5	（3）泌乳の生理と搾乳	1	
	6	（4）搾乳牛の飼育管理	1	
	7	（5）乳用子牛・育成牛の飼育管理	1	
	8	（6）牛乳の品質と利用	1	
	9	体測の意義と方法	1	
	10	肉用牛の飼養管理各論		
	11	（1）肉用牛の品種と改良	1	
	12	（2）飼養方法と施設・作業機械	1	
	13	（3）肉用牛の生理と飼育技術	1	
	14	（4）肥育牛の飼養管理	1	
	15	（5）飼料の種類と給与	1	
	16	（6）肉用牛の衛生と病気	1	
	17	定期考査	1	

テキスト・副教材						
評価方法	評価方法	観点	割合	評価方法	観点	割合
	定期考査	知・技、思・判・表	80	実技テスト		
	レポート			発表・成果物		
	授業・実習態度	思・判・表、態	20	研修評価		

観点：「知・技」・・・知識・技能、「思・判・表」・・・思考・判断・表現、「態」・・・主体的に取り組む態度

科目名	畜産飼養管理演習（酪農）	開講時期	1年生　通年
		授業の形態	演習
ディプロマポリシー	実践的な知識・技術	時間数	40 時間
担当者名		単位数	2 単位
科目の概要	（1）　乳用牛に関する知識や技術を学修 （2）　乳用牛の飼養管理を実践し、生産管理技術を習得 （3）　農家及び畜産関係機関等を視察し、先進的な取り組みや管理の違いの理解 （4）　県内外で開催される研修会や講習会等に参加し新たな知見を得る		
身に付ける力	就農又は就業した際の乳用牛を飼養管理する知識及び技術		
到達目標	（1）　乳用牛の飼養及び生産管理ができる （2）　県内の先進農家の取り組みや畜産関係機関の役割を知る （3）　研修会等で得られた知識等を飼養管理に活用する		

授業計画

	授業内容・方法	時間数	講師
1	乳用牛の飼養管理	30	
2	（1）飼い付け		
3	（2）搾乳（データ管理含む）		
4	（3）一般管理（床替え、牛舎洗浄等）		
5	（4）除角		
6	（5）放牧地管理		
7	（6）肉用牛の飼養管理		
8	農家及び試験研究機関等への視察	5	
9	（1）家畜市場（子牛、成牛等）		
10	（2）畜産農家		
11	（3）農林総合技術センター畜産技術部		
12	（4）その他		
13	研修会等への参加	5	
14	酪農関係研修会		
15			

テキスト・副教材

評価方法

評価方法	観点	割合	評価方法	観点	割合
定期試験			実技テスト		
レポート	知・技、思・判・表	50	発表・成果物		
授業・実習態度	思・判・表、態	50	研修評価		

観点：「知・技」・・・知識・技能、「思・判・表」・・・思考・判断・表現、「態」・・・主体的に取り組む態度

科目名	生産プロジェクト実習（酪農）	開講時期	1年生通年
		授業の形態	実習
ディプロマポリシー	実践的な知識・技術	時間数	750 時間
担当者名		単位数	25 単位
科目の概要	飼養管理技術や生産性の向上を図ることを目的に、日々の飼養管理を通じて課題を見つけ、対策を計画、実践し、資料にまとめて発表を行う。		
身に付ける力	課題を見つけ、対策を検討し効果の検証を行う技術		
到達目標	（1）生産目標の設定 （2）課題の抽出 （3）対策の検討と検証		

授業計画

	授業内容・方法	時間数	講師
1	生産プロジェクト課題設定	4	
2	設計書及び中間報告書作成	6	
3	生産プロジェクト実習	720	
4	生産プロジェクト取りまとめ	20	
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

テキスト・副教材

評価方法

評価方法	観点	割合	評価方法	観点	割合
定期試験			実技テスト	知・技、思・判・表	60
レポート			発表・成果物	思・判・表	10
授業・実習態度	思・判・表、態	30	研修評価		

観点：「知・技」・・・知識・技能、「思・判・表」・・・思考・判断・表現、「態」・・・主体的に取り組む態度

科目名	農家体験研修	開講時期	1年生5月～6月
		授業の形態	実習
ディプロマポリシー	実践的な知識・技術、地域活性化力、豊かな人間性	時間数	30 時間
担当者名		単位数	1 単位
科目の概要	先進農家・農業法人での1週間の農業体験研修		
身に付ける力	農大での学修及び就農意欲の向上		
到達目標	生産現場や農家生活、農業法人の実態の体験・理解		

授業計画		授業内容・方法	時間数	講師
	1	農家体験研修（5日間）	30	（研修先）農家等
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			

評価方法	評価方法	観点	割合	評価方法	観点	割合
	定期試験			実技テスト		
	レポート（研修報告）	思・判・理	50	発表・成果物	知・技	50
	授業・実習態度			研修評価		

観点：「知・技」・・・知識・技能、「思・判・表」・・・思考・判断・表現、「態」・・・主体的に取り組む態度

科目名	畜産飼養管理演習（肉用牛）	開講時期	1年生　通年
		授業の形態	演習
ディプロマポリシー	実践的な知識・技術	時間数	40 時間
担当者名		単位数	2 単位
科目の概要	（1）　肉用牛に関する知識や技術を学修 （2）　肉用牛の飼養管理を実践し、生産管理技術を習得 （3）　農家及び畜産関係機関等を視察し、先進的な取り組みや管理の違いの理解 （4）　県内外で開催される研修会や講習会等に参加し新たな知見を得る		
身に付ける力	就農又は就業した際の肉用牛を飼養管理する知識及び技術		
到達目標	（1）　肉用牛の飼養及び生産管理ができる （2）　県内の先進農家の取り組みや畜産関係機関の役割を知る （3）　研修会等で得られた知識等を飼養管理に活用する		

授業計画		授業内容・方法	時間数	講師
	1	肉用牛飼養管理	30	
	2	（1）給餌管理		
	3	（2）一般管理（畜舎・牛房内環境整備等）		
	4	（3）除角		
	5	（4）去勢		
	6	（5）鼻環装着		
	7	（6）放牧地管理		
	8	（7）乳用牛の飼養管理		
	9	全共出品に向けた取組		
	10	農家及び試験研究機関等への視察	5	
	11	（1）家畜市場（子牛、成牛等）		
	12	（2）畜産農家		
	13	（3）農林総合技術センター畜産技術部		
	14	（4）その他		
	15	研修会等への参加	5	
	16	肉用牛関係研修会		
	17			

テキスト・副教材	

評価方法	評価方法	観点	割合	評価方法	観点	割合
	定期試験			実技テスト	知・技、思・判・表	40
	レポート	知・技、思・判・表	20	発表・成果物		
	授業・実習態度	思・判・表、態	40	研修評価		

観点：「知・技」・・・知識・技能、「思・判・表」・・・思考・判断・表現、「態」・・・主体的に取り組む態度